レトロ・レトロの展覧会 2021　特別陳列2　黒土遺跡

東山道を探る ～道沿いの生業～

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

はじめに

古代の草津市内には、東山道が大津市瀬田から守山市へ向けて通過していたのみならず、市内の矢倉付近で、東海道が分岐していました。

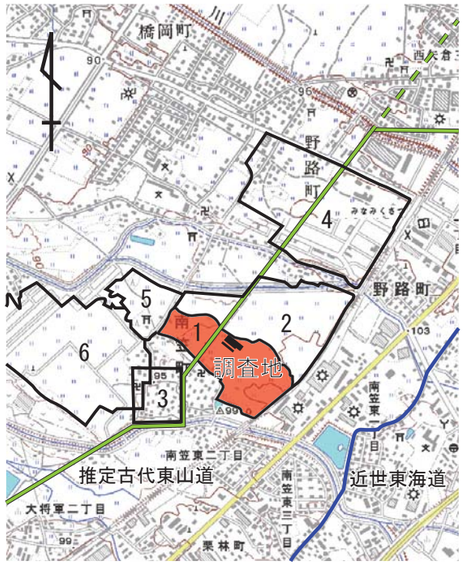
草津市南部に位置する黒土遺跡は、瀬田丘陵の先端にある段丘に立地する遺跡で、遺跡範囲内は、低位段丘面と谷底平野によって構成された地形になります。これまでの発掘調査では、奈良時代から平安時代にかけての建物跡や金属生産に係る遺構、東山道跡などがみつかっています。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、草津市教育委員会の依頼を受け、大型店舗建設に伴う発掘調査を令和２年11月から令和３年５月まで実施しました。

今回の調査地は黒土遺跡の北東部に位置しており、既往の調査で古代の東山道跡がみつかった隣接地にあたります。

調査の結果、縄文時代の河道や奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物・金属生産関連遺構がみつかりました。とりわけ、平成28年度調査でみつかった長舎建物の一部をはじめ、金属鋳造に伴う炉壁や木炭が多く出土したことは注目されます。

今回の展示では、これらの金属生産に係る遺物や土器などを中心に紹介していきます。



1. 黒土遺跡（古墳～平安時代、集落跡）
2. 榊差遺跡・榊差古墳群
（古墳～平安時代、古墳・集落跡）
3. 笠寺廃寺（白鳳・奈良時代、寺院跡）
4. 野路岡田遺跡（縄文～鎌倉時代、集落跡）
5. 笠寺古墳群（古墳時代、古墳）
6. 西海道遺跡（弥生～鎌倉時代、集落跡）

黒土遺跡と周辺の遺跡（1:25,000）

奈良時代の長舎建物（正面奥は比叡山）（写真：草津市教育委員会提供）

調査の成果

今回の調査では、縄文時代・奈良時代から平安時代にかけての、遺構や遺物がみつかりました。ここでは特徴的なものを中心に取り上げます。

縄文時代　谷底を蛇行するように流れる河道がみつかり、打製石鏃が10点出土しました。土器がみつかっていないことから、水辺に集まる動物などの狩場であったのでしょうか。

奈良時代　全国的に広域交通路が整備され、黒土遺跡内でも平城京と東北地方を結ぶ東山道が縦断するように通り抜けます。この頃、県内でも有数規模の長舎建物をはじめ、掘立柱建物が建てられるようになります。

それと同時に隣接する榊差遺跡にまたがり金属製品の生産を行うようになります。平成28年度や令和元年度に行われた調査でも銅製品や鉄製品の鋳造遺構が数カ所でみつかっています。今回の調査でも鋳込み場などの直接生産に係る遺構はありませんでしたが、鋳造炉などの炉壁や木炭を廃棄した痕跡がいくつもみつかっています。これらはすべて長舎建物がある高い場所から谷底へ落ち込んでいく斜面地にあたり、なかには当時はほぼ埋まりかけて湿地状になっていた河道に投げ棄てている状況もみてとれました。

また、直接金属生産に伴うものか明らかではありませんが、底面や側面が火を受けて真っ赤に焼け、炭がつまった長方形の土坑も数基みつかっています。

平安時代　前時代には盛んに行われていた金属生産も終わり、平安時代中期（10世紀）頃には東山道沿いの集落へと変わっていくようです。この頃には河道も完全に埋まってしまったようです。

平安時代後期（12世紀）を最後に遺構・遺物はみられなくなります。集落も他所へ移り、以降は耕地化が進み、近年まで見られたような水田景観が広がっていったことでしょう。

縄文時代の石鏃

奈良時代（8世紀）の土器

木炭（左）と炉壁（右）

平安時代中期（10世紀）の土器

平安時代後期（12世紀）の土器

まとめ

奈良時代時代になり東山道が整備され、広域地域間の交通の便がよくなり、新たに人や物資が集まると同時に様々な生業も根付いていきます。ここ黒土遺跡でも、草津から瀬田にかけた丘陵地域に展開した製鉄生産と軌を一にするように金属製品の生産が行われるようになります。材料の調達から製品の輸送に適した交通の利便性が、この地に金属製品生産をもたらしたのも必然の結果であったということができます。

⑤河道の堆積

河道が堆積する過程で不要になった炉壁・木炭・灰などを投げ捨てています
（赤茶けた部分、右写真の土坑埋没後に投棄）

④土坑から出土した木製品

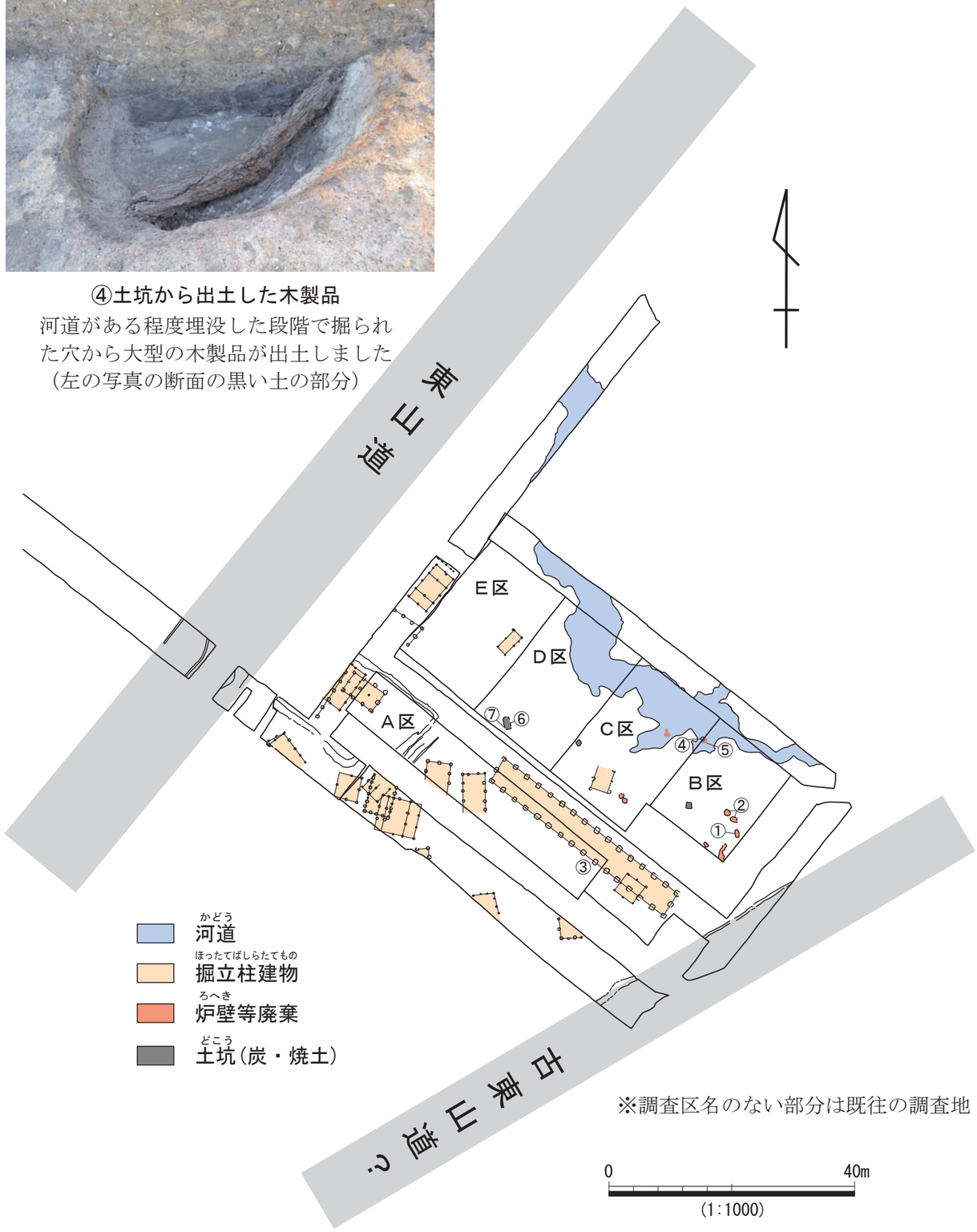
河道がある程度埋没した段階で掘られた穴から大型の木製品が出土しました
（左の写真の断面の黒い土の部分）

⑥炭と焼土

長方形の土坑の底が真っ赤に焼けて炭化物を含む土で覆われていました
今調査では数基みつかっています

⑦土器の出土したようす

小穴の中から平安時代中期の土器がまとまって出土しました
（写真右半分の茶色い土は⑥の埋土）



※調査区名のない部分は既往の調査地

黒土遺跡の主要遺構

①金属鋳造関連遺物の廃棄坑

不要になった炉壁・木炭・灰などをかたづけるために穴を掘って捨てています
（灰色部分が灰層、赤茶けた部分が炉壁、黒色部分が木炭）

②廃棄坑の調査のようす

このような廃棄坑は長舎建物と河道の間に集中しています

③奈良時代初頭の長舎建物

15間（45m）×2間（5.4m）の大規模な建物で、平成28年度にみつかった建物の一部です